

② 日本語支援拠点施設「ひまわり」における取組

1 日本語支援拠点施設「ひまわり」開設

教育分野の取組①に記載のとおり、横浜市では外国籍・外国につながる児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒数が年々増加している。また、個々の外国籍等児童生徒を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、増加に伴う支援の拡充及び児童生徒・保護者や学校のニーズに応じた支援を実施していく必要がある。さらに、当該児童生徒が集中する学校での教科指導時間の確保や子どもの学力向上といった課題への対応、これまで受入経験がない学校での受入れ・指導のための支援が求められている。また、こうした外国籍等児童生徒は、年度途中での編入（特に9月）が多いが、学校の人的配置は年度当初に決まってしまうことから、学校での受入れや指導の態勢が整わない状況もある。

そこで、当該児童生徒に対する学校生活への円滑な適応の支援や学校での受入れの負

担軽減等を目的とし、2017年9月に横浜市初となる日本語支援拠点施設「ひまわり」を中区に開設した。なお、「愛称である「ひまわり」は小・中・義務教育学校の児童生徒から募集して決まり、「笑顔が咲き誇り、ひまわりのように仲間と元気にすごせるように」という思いが込められている。



日本語支援拠点施設「ひまわり」



ひまわりキャラクター

2 「ひまわり」の主な事業

日本語支援拠点施設「ひまわり」では、次の3つの事業が実施されている。

「プレクラス」

帰国・来日間もない児童生徒が学校に速やかに適応できるように、集中的な日本語指導と学校生活の体験を行う。「お腹が痛い」などといったサバイバル日本語から初期日本語の指導、音楽や体育などの教科について予備知識を習得するための指導、チャイムによる時間管理などで学校での生活習慣を獲得するための指導等を実施する。

【対象】 初期日本語指導が必要な児童生徒

【職員】 日本語講師（日本語教育に関する資格保持）とプレクラス指導員（教員免許保有、学校での指導経験有）

【通級期間】 4週間（週3日 水・木・金曜日）9時～14時（小学生は保護者の送迎が必要）

【クラス】 ①はな組（小学校

低学年）②みどり組（小学校高学年）③そら組（中学校）

【定員】 60名（各クラス20名×3クラス）

【指導内容】 ①初期日本語指導 ②学校生活体験 ③体育・音楽など教科につながる日本語（授業で使う日本語）指導



プレクラスの様子

「学校ガイダンス」

児童生徒・保護者の不安軽減、学校の負担軽減を図るため、入学時に必要な書類記入の支援に加え、日本の学校生活に必要なことや保護者の役割を伝える。

【対象】 来日・帰国直後の児童生徒及びその保護者

【実施日時】 毎週火曜日 15

執筆

梅原 依里

教育委員会事務局小中学校企画課

時 16時30分

(8月下旬は毎日実施)

【実施言語】中・英・タガログ語とやさしい日本語

【実施内容】①入学手続、学用品、学校生活等の各種説明
②保護者会・PTA等での役割説明
③児童生徒の基本情報等の確認、保護者の連絡先等の確認
④口座開設関係書類等の作成支援



学校ガイダンスの様子

【さくら教室】

新小学1年生が学校生活や学習の準備を体験すること
で、円滑に学校生活を始める
ことができるよう支援を行う
とともに、当該児童の保護者
に対し、日本の学校生活や学
習の必要性を説明する。

【対象】外国籍等の新小学校
1年生とその保護者

【実施時期】3月第1週・第
2週の土曜日(2週連続)

【実施言語】参加保護者の母

語(中・英・タガログ・スベ
イン・ポルトガル語等) 20
19年は11言語

【実施内容】(新1年生向け)
①あいさつ・返事の仕方
②鉛筆・道具の使い方
③学校生活の体験
(保護者向け) ①学校ガイダ
ンスの内容
②家庭学習の説明
③質問対応 等



さくら教室の様子

3 「ひまわり」の成果と 今後に向けて

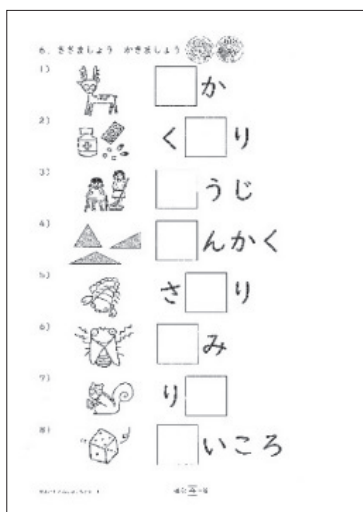
プレクラスでは、開設から
2019年3月まで、合計2
52名の児童生徒が利用して
いる。国籍・つながる国別で
は、中国が195名で最も多
く、次にフィリピンが22名と
続き、合計19か国にのぼる。
また、在籍校の区別では、南
区92名、中区51名で、やはり
近隣区からの利用が多い。学

校ガイダンスは同期間に合計
261組の児童生徒と保護者
が参加、さくら教室では、1
84組の児童・保護者が参加
している。また、プレクラス
を利用した学校へのヒアリン
グでは、プレクラスに通った
児童生徒は、日本語の習得が
早くできていることや、掃除
など学校生活での習慣が身に
付いていることなどが効果と
して挙げられた。また、学校
ガイダンスやさくら教室につ
いては、母語話者が説明、相
談を行うことで、児童生徒、
保護者の不安の軽減につな
がっていると聞いている。

2019年4月、学校長や
教育委員会事務局、関係区局
職員によるプロジェクトを設
置し、これまでの「ひまわり」
について検証を実施した。6
月に小・中・義務教育学校全
校及び「ひまわり」を利用し
た児童生徒・保護者へのアン
ケートを実施し、その結果を
プロジェクトの議論に活用し
て、7月には今後の日本語支
援の在り方を報告書としてま
とめた。各事業の実施内容に
ついて、学校からは「今のま
までよい」97・0%、「今後
の日本語支援において『ひま
わり』は必要」99・1%とい
う一定の評価を得ている。一
方で、「ひまわり」を利用し

なかった理由として、「『ひま
わり』を知らなかった」、「必
要ないと思った」、「『ひまわ
り』までの通級、送迎が困難
である」などが挙げられた。
また、学校からの期待として
「保護者・児童生徒への相談
支援」、「日本語指導のための
プリント教材等の提供」、「指
導員を派遣して行う出張指
導」などが多く挙げられた。

2019年9月、集中的な
初期日本語指導のノウハウを
まとめ、プレクラスでも使用
している独自教材「ひまわり
練習帳1」を発行し、冊子版
を各学校に配付、ダウンロード
版をホームページ上に掲載
した。今後も、引き続き学校
や児童生徒・保護者の意見を
踏まえ、横浜市国際交流協会
など関係機関と連携しなが
ら、「ひまわり」での支援を
着実に推進していくことも
に、他の支援制度との関連を
踏まえた上で、子どもたちが
安心して学校生活
を送ることができ
る体制の充実を目
指していきたい。



ひまわり練習帳より